

2025年度

**数理・データサイエンス・AI教育プログラム
自己点検・評価について**

**2026年9月
工学院大学
教育評価改善委員会**

1.リテラシーレベル（大学全体）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和7年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は1,612名（入学定員比115%）であった。また令和7年度に、リテラシーレベルの修了条件を満たした学生数は667名（入学定員比47.7%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修・修得状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和7年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができており、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績評価及び授業アンケート等の複数の指標を用いて、学生の理解度を多面的に分析できているか。	【点検結果】 令和7年度、当該プログラムの修了条件科目の一つである「工学院大スタディーズ」の履修者の成績分布はA+が2.29%、Aが50.27%、Bが27.73%、Cが8.23%、Dが5.47%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の93.99%に単位認定)。また「工学院大スタディーズ」の授業アンケートの平均値は3.44(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.44(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績評価による学習成果と授業アンケートによる学生自身の理解に関する認識の両面から学生の理解度を多面的に分析できている、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 学生ポータルサイト「KU-PORT」で教育プログラムの履修状況を学生自身が確認できるようになっている。また、入学時のガイダンス等を通じて教育プログラムを学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	A
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室による自己点検の際にカリキュラムの見直しを含めた意見聴取、協議が行われた。履修率向上のために入学時のガイダンス等を通じて学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 卒業（修了）生の一部に広報Web「卒業生の活躍」にてインタビューを実施している。また就職先等の関係者は研究室指導教員や就職キャリアセンターを通じて企業から情報人材へのニーズについて聴取した。また、全学部対象の授業「学外研修」「インターンシップ」において、デジタル人材を採用したい企業から受け入れ希望があった。 卒業後5年を経た卒業生1,501名を対象にアンケートを実施。（回答率18.3%）設問項目として「大学生生活を通じて身についた力」や「大学生のうちに、身につけておくべき力」といったことなどがある。また同時に、過去10年で本学出身者が多い企業739社を対象にアンケートを実施。（回答率28.3%）設問項目として「企業が期待する力」や「（卒業生が）不足している力」といったことなどがあり、いずれの結果についてもフィードバックを受けて今後、教育改善に向けた材料としていく。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	A
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」で採択された「DX実践ラボ」の産業界講師から教育内容に関する意見を受け、教育内容の改善に活用している。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証が実施されているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 youtube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8sIY）。また、教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、動画、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和7年度は、令和6年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

2.応用基礎レベル（先進工学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和7年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は439名（入学定員比120%）であった。修了条件を満たした学生数は8名（入学定員比2.2%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和7年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができており、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績評価及び授業アンケート等の複数の指標を用いて、学生の理解度を多面的に分析できているか。	【点検結果】 令和7年度、当該プログラムのコア科目の一つである「線形代数及び演習Ⅰ（先進工学部）」の履修者の成績分布はA+が23.02%、Aが35.81%、Bが19.07%、Cが10.23%、Dが6.98%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の95.12%に単位認定)。また「線形代数及び演習Ⅰ（先進工学部）」の授業アンケートの平均値は3.62(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.70(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績評価による学習成果と授業アンケートによる学生自身の理解に関する認識の両面から学生の理解度を多面的に分析できている、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 入学時のガイダンス等を通じて教育プログラムを学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室による自己点検の際にカリキュラムの見直しを含めた意見聴取、協議が行われた。履修率向上のために入学時のガイダンス等を通じて学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 卒業（修了）生の一部に広報Web「卒業生の活躍」にてインタビューを実施している。また就職先等の関係者は研究室指導教員や就職キャリアセンターを通じて企業から情報人材へのニーズについて聴取した。また、全学部対象の授業「学外研修」「インターンシップ」において、デジタル人材を採用したい企業から受け入れ希望があった。 卒業後5年を経た卒業生1,501名を対象にアンケートを実施。（回答率18.3%）設問項目として「大学生生活を通じて身についた力」や「大学生のうちに、身につけておくべき力」といったことなどがある。また同時に、過去10年で本学出身者が多い企業739社を対象にアンケートを実施。（回答率28.3%）設問項目として「企業が期待する力」や「（卒業生が）不足している力」といったことなどがあり、いずれの結果についてもフィードバックを受けて今後、教育改善に向けた材料としていく。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	A
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」で採択された「DX実践ラボ」の産業界講師から教育内容に関する意見を受け、教育内容の改善に活用している。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証が実施されているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 youtube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8slY）。また、教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、動画、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和7年度は、令和6年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

3.応用基礎レベル（工学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和7年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は420名（入学定員比110%）であった。修了条件を満たした学生数は18名（入学定員比4.7%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和7年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができており、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績評価及び授業アンケート等の複数の指標を用いて、学生の理解度を多面的に分析できているか。	【点検結果】 令和7年度、当該プログラムのコア科目の一つである「線形代数及び演習Ⅰ（工学部）」の履修者の成績分布はA+が36.05%、Aが30.84%、Bが18.82%、Cが8.16%、Dが0.91%であった（A+からDまでが単位認定、履修者の94.78%に単位認定）。また「線形代数及び演習Ⅰ（工学部）」の授業アンケートの平均値は3.52(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.59(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績評価による学習成果と授業アンケートによる学生自身の理解に関する認識の両面から学生の理解度を多面的に分析できている、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 入学時のガイダンス等を通じて教育プログラムを学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室による自己点検の際にカリキュラムの見直しを含めた意見聴取、協議が行われた。履修率向上のために入学時のガイダンス等を通じて学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 卒業（修了）生の一部に広報Web「卒業生の活躍」にてインタビューを実施している。また就職先等の関係者は研究室指導教員や就職キャリアセンターを通じて企業から情報人材へのニーズについて聴取した。また、全学部対象の授業「学外研修」「インターンシップ」において、デジタル人材を採用したい企業から受け入れ希望があった。 卒業後5年を経た卒業生1,501名を対象にアンケートを実施。（回答率18.3%）設問項目として「大学生生活を通じて身についた力」や「大学生のうちに、身につけておくべき力」といったことなどがある。また同時に、過去10年で本学出身者が多い企業739社を対象にアンケートを実施。（回答率28.3%）設問項目として「企業が期待する力」や「（卒業生が）不足している力」といったことなどがあり、いずれの結果についてもフィードバックを受けて今後、教育改善に向けた材料としていく。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	A
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」で採択された「DX実践ラボ」の産業界講師から教育内容に関する意見を受け、教育内容の改善に活用している。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証が実施されているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 youtube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8sIY）。また、教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、動画、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和7年度は、令和6年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

4.応用基礎レベル（情報学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和7年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は373名（入学定員比120%）であった。修了条件を満たした学生数は147名（入学定員比47.4%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和7年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができており、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績評価及び授業アンケート等の複数の指標を用いて、学生の理解度を多面的に分析できているか。	【点検結果】 令和7年度、当該プログラムのコア科目の一つである「確率・統計Ⅰ」の履修者の成績分布はA+が29.66%、Aが22.60%、Bが20.06%、Cが12.43%、Dが7.91%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の92.66%に単位認定)。また「確率・統計Ⅰ」の授業アンケートの平均値は3.40(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.32(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績評価による学習成果と授業アンケートによる学生自身の理解に関する認識の両面から学生の理解度を多面的に分析できており、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 入学時のガイダンス等を通じて教育プログラムを学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室による自己点検の際にカリキュラムの見直しを含めた意見聴取、協議が行われた。履修率向上のために入学時のガイダンス等を通じて学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 卒業（修了）生の一部に広報Web「卒業生の活躍」にてインタビューを実施している。また就職先等の関係者は研究室指導教員や就職キャリアセンターを通じて企業から情報人材へのニーズについて聴取した。また、全学部対象の授業「学外研修」「インターンシップ」において、デジタル人材を採用したい企業から受け入れ希望があった。 卒業後5年を経た卒業生1,501名を対象にアンケートを実施。（回答率18.3%）設問項目として「大学生生活を通じて身についた力」や「大学生のうちに、身につけておくべき力」といったことなどがある。また同時に、過去10年で本学出身者が多い企業739社を対象にアンケートを実施。（回答率28.3%）設問項目として「企業が期待する力」や「（卒業生が）不足している力」といったことなどがあり、いずれの結果についてもフィードバックを受けて今後、教育改善に向けた材料としていく。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	A
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」で採択された「DX実践ラボ」の産業界講師から教育内容に関する意見を受け、教育内容の改善に活用している。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証が実施されているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 youtube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8sIY）。また、教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、動画、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和7年度は、令和6年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。

5.応用基礎レベル（建築学部）

1.学内からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
プログラムの履修・修得状況	○学生の履修状況の分析が実施できているか。	【点検結果】 令和7年度に、当該プログラムを新規履修した学生数は379名（入学定員比109%）であった。修了条件を満たした学生数は84名（入学定員比24.3%）であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生の履修状況の分析が定量的に実施されており、十分に基準を満たすことができた。	A
学修成果	○具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができているか。	【点検結果】 令和7年度の当該プログラムの各授業の具体的な到達目標と授業計画がシラバスに明示されていた。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、具体的な到達目標が適切に設定されたうえで、授業設計ができており、基準を満たすことができた。	B
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	○成績評価及び授業アンケート等の複数の指標を用いて、学生の理解度を多面的に分析できているか。	【点検結果】 令和7年度、当該プログラムのコア科目の一つである「AIとデータサイエンス」の履修者の成績分布はA+が28.93%、Aが39.62%、Bが16.35%、Cが3.14%、Dが6.29%であった(A+からDまでが単位認定、履修者の94.34%に単位認定)。また「AIとデータサイエンス」の授業アンケートの平均値は3.47(最大4.0)であり、内訳のうち理解度の平均値は3.32(最大4.0)であった。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、成績評価による学習成果と授業アンケートによる学生自身の理解に関する認識の両面から学生の理解度を多面的に分析できている、十分に基準を満たすことができた。	A
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	○学生間で当該教育プログラムの浸透が図られているか。	【点検結果】 入学時のガイダンス等を通じて教育プログラムを学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、学生間で当該教育プログラムの浸透が図られており、基準を満たすことができた。	B
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	○カリキュラム見直しに向けての協議、その計画内容が明示されているか。 ○履修率向上の取組がなされているか。	【点検結果】 数理・データサイエンス・AI教育推進室による自己点検の際にカリキュラムの見直しを含めた意見聴取、協議が行われた。履修率向上のために入学時のガイダンス等を通じて学生に告知した。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、カリキュラム見直しに向けての協議、履修率向上の取組がなされており、基準を満たすことができた。	B

2.学外からの視点での点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握できているか。	【点検結果】 卒業（修了）生の一部に広報Web「卒業生の活躍」にてインタビューを実施している。また就職先等の関係者は研究室指導教員や就職キャリアセンターを通じて企業から情報人材へのニーズについて聴取した。また、全学部対象の授業「学外研修」「インターンシップ」において、デジタル人材を採用したい企業から受け入れ希望があった。 卒業後5年を経た卒業生1,501名を対象にアンケートを実施。（回答率18.3%）設問項目として「大学生生活を通じて身についた力」や「大学生のうちに、身につけておくべき力」といったことなどがある。 また同時に、過去10年で本学出身者が多い企業739社を対象にアンケートを実施。（回答率28.3%） 設問項目として「企業が期待する力」や「（卒業生が）不足している力」といったことなどがあり、いずれの結果についてもフィードバックを受けて今後、教育改善に向けた材料としていく。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、社会からのニーズ等を把握できたので基準を満たすことができた。	B
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	○外部者による検証が実施されているか。	【点検結果】 「大学・高専機能強化支援事業（高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）【支援2大学】」で採択された「DX実践ラボ」の産業界講師から教育内容に関する意見を受け、教育内容の改善に活用している。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、外部者による検証が実施されているので、基準を満たすことができた。	B
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	○WEBサイト等を通じて、取り組みの状況などを学内外に明示しているか。	【点検結果】 youtube動画"#Action AIと人間が高め合う未来"を公開し数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させた（https://www.youtube.com/watch?v=pcCXpmD8sIY）。また、教育プログラム紹介サイトを通して取り組みの状況などを学内外に明示した（https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/）。 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、動画、WEBサイトを通じて、取り組みの状況などを学内外に明示していたので、基準を満たすことができた。	A
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	○WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表しているか。	【点検結果】 令和7年度は、令和6年度の点検・評価を特設サイトで公開した。 https://www.kogakuin.ac.jp/datascience/index.html 【評価結果】 上記の点検結果のとおり、WEBサイト等を通じて、点検・評価結果等を学内外に公表したので、基準を満たすことができた。	B

点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・AI科目に係る全学の点検・評価は、次の実施要領により行う。

1.評価項目

評価項目は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

2.評価基準

評価基準は、教育開発センター 数理・データサイエンス・AI教育推進室において定める。

3.点検・評価の実施

点検・評価は、教育評価改善委員会において行う。

4.評価の方法

評価は、教育評価改善委員会において、評価基準に従い次の3段階で実施する。

【評価レベル】

A 優れた点があり、十分に行われている。

B 概ね行われており、相応である。

C 改善の必要がある。